

**まずいカレーが
教えてくれたこと**





「覚悟してくださいー」

**赤ちゃんのころ、親の姿を目で追ったり
はいはいしなかったたけしさん。**

**心配して連れて行った病院で、
両親は思いもよらぬ宣告を受けました。**

**たけしさんの目の病気は
国内でも発症例が少なく、
治療が難しい病気でした。**

でも、両親はめげません。
「珍しい病気にかかった子どもを
持ったことはチャンスだ。
ほかのお父さん、お母さんが
体験できないことを経験できる」と
前向きに考えます。
「同じ生活を送らせたい」という願いから
地域の小学校に通わせ、
たくさんの友達ができました。
友達はたけしさんの障がいを理解し、
思いやりを持って接してくれました。





ある日、調理実習で
大好きなサンドイッチを作ることになり、
たけしさんは大張り切り。
でも、卵をゆでたり、包丁を持ったり、
皿洗いもさせてもらえませんでした。
少しでも危ないことはだめ。
たけしさんの作業は
できあがったサンドイッチを
押して形を整えることだけ。
「もっともっと、料理したかったー」
できないと決めつけられ、
たけしさんは不満でした。

**中学は東京の特別支援学校に通いました。
両親と離れた寮生活、頼る人はいません。
掃除、洗濯、買い物など。
今まで両親や友達にしてもらっていたことを
全部自分でやらなければいけません。**





**ある日、料理に挑戦しました。
ちょっとした工夫を教わり、
けがをせずに野菜を切ることができました。
その工夫とは、
具材を押さえる手を猫の手にするのと、
探すとき手を切らないように
包丁の刃の部分を奥側に置くことだけ。
たくさんの方ができるとがわかり、
嬉しくなりました。**

そしてカレーライス作りに挑戦！
人生で初めて作るカレー。
材料を買い、レシピ通りに調理するだけで
誰でもおいしく作れるはず。
できあがりを想像して、わくわくしました。





**「うっ、なんだこのおいしくないカレーは！」
材料も作り方も間違えていないのですが、
お母さんの味とは全く違います。**

**初めて作ったカレーは
人生で最もおいしくないカレーとなりました。
そして、おいしい料理を作ってくれる
お母さんのことを思い出しました。**

たけしさんはいま、子育てに奮闘中です。

大人になって結婚し、

3人の子宝を授かりました。

抱っこした赤ちゃんを壁にぶついたり、

おしめをはずした瞬間に

おしっこをかけられたり。

それでも子育てをがんばります。

「しなかったのは母乳をあげることと産むことぐらい。

やってみないと、できるかどうか分からないから」

生まれつき目が見えないたけしさんは、

目が見えない人たちが通う特別支援学校の先生。

奥さんと3人の子どもと幸せな生活を送っています。





「視覚障がい」について

なんらかの原因により視機能に障がいがあることにより、全く見えない場合と見えづらい場合とがあります。後者の場合は ▽細部が分からない ▽見える範囲が狭い ▽光がまぶしい ▽特定の色が分かりにくい—などの症状が特徴です。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇ 白杖を使用している人が困っていたら突然体にふれず、前方から簡単な自己紹介をしてから声をかける
- ◇ 「こちら」「あちら」などの指示語は使わず、具体的に説明する
- ◇ その人の「目」になる気持ちで接する

あしがき

インクルージョン教育という言葉を知ってもらった。初等教育や中等教育段階において、障がい児が大半の時間を通常学級で教育を受けることだそう。実際、多くの親はこれを望んでいる。学校側も徐々に障がい児が普通に学ぶことができる環境の整備を進めている。ただ、今回の取材で聞いた「もっとできることはあった

のに、危険だからとさせてもらえなかった」という言葉には、障がい児・者への対応の難しさをあらためて感じた。浅はかな知識ではだめだ。もっと障がいについて学ばなければいけない。(あ)